資料４

平成３０年１１月定例会（事前）
文教厚生委員会資料
教　育　委　員　会

重要文化財（建造物）「武知家住宅」の指定について

国の文化審議会（会長 佐藤（さとう） 信（まこと））は，平成３０年１０月１９日（金）に開催された同審議会文化財分科会において，新たに１０件の建造物を重要文化財等に指定するよう文部科学大臣に答申しました。

その中に，石井町の「武知家住宅」が含まれています。

名称及び員数	武知家住宅（たけちけ）　１２棟 主屋，離れ，伝い，宝庫，庫蔵，通門，東藍床，西藍床，寝床，倉廩，作男部屋，下部家，土地
所　在　地	名西郡石井町高川原
年　　代	嘉永４年（１８５１年）～明治９年（１８７６年）
特　　徴	武知家住宅は，藍製造で繁栄した吉野川下流域で最大級の藍商の住宅である。 広大な敷地の中央に建つ主屋は文久２年（１８６２年）に建てられた大規模な建物で，当地の伝統的民家形式を基軸としつつ，接客空間を充実させた高い格式を備えている。敷地には江戸時代末期から明治前期に整えられた「藍の寝床」など，藍の生産に必要な建造物群を含む豪壮な屋敷構えがほぼ完存しており，当地域の藍屋敷を代表する大型の近世民家として重要である。

武知家住宅

主屋（オモテノマ，ツギノマ）